

(別添 2)

| | |
|-------|--------|
| No. | |
| 策定年月 | 令和3年4月 |
| 見直し年月 | 令和〇年〇月 |

麦・大豆産地生産性向上計画 那珂川(小口、三川又、北向田、久那瀬、松野、富山、小川)産地 (作成主体:那珂川町農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

那珂川町は、耕地面積の約66%が水田の水田地域である。そのうちの約3割で主食用米が作付けされており、他には麦やそば、大豆などが作付けされている。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆などの戦略作物の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し、大豆は需要が拡大基調である「里のほほえみ」を中心に、麦類は「シュンライ」を中心に、需要に応じた品種の作付けと単収の安定を実現する。

現在、那珂川町においては、那珂川町農業再生協議会水田収益力強化ビジョンにより水田の収益力強化に取り組んでいるが、本計画において、大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

大豆については、主に「里のほほえみ」を作付けし、JA系統出荷を行っている。需要が生産を上回って作柄の不安定さにより安定供給が達成できていない状況にある。その他、6次産業化に取組み、みそや豆腐等の加工品製造のため「とよみずき」や「ミヤギシロメ」を作付けし、軒先販売や近隣の道の駅で販売している。需要に応じた大豆生産のため、安定生産と単収の増加により生産力を強化し、併せて作付面積の増加を図る必要がある。

麦については、当産地で主に作付けされている六条大麦「シュンライ」は麦茶及び食用として需要があり、生産量を上回って推移している。しかし、気象条件等による収量、品質への影響が大きいため、適期作業を行うために必要な排水対策や高性能機械の導入等を行い、収量、品質の安定を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作付面積が拡大傾向にあることから、適期作業の逸失等が起こり、単収や品質の低下につながっている。収量・品質の安定と増収を図るためには、適切な肥培管理のための土壌診断の実施や排水対策としての心土破碎等の技術を行う必要がある。

さらに、現在、団地化されているほ場は無く、ほ場が分散しているため、効率的な作付けができてないことから、団地化の推進や効率的な機械の導入等を行い、生産性の向上を図る必要がある。

(3)実績

① 生産量

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|-------|-------------|---------|-----------|---------------|-----------|-----------|---------|---------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 小麦 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 大麦 | シュンライ | (15) 23 | (17) 24 | (19) 26 | (279) 279 | (341) 341 | (261) 261 | (42) 64 | (59) 82 | (50) 68 |
| 作物計 | | (15) 23 | (17) 24 | (19) 26 | (279) 279 | (341) 341 | (261) 261 | (42) 64 | (59) 82 | (50) 68 |

| 作物名 | 品種名 | 作付面積の推移(ha) | | | 単収の推移(kg/10a) | | | 生産量(t) | | |
|-----|----------------------------|-------------|--------|-----------|---------------|-----------|-----------|---------|---------|-----------|
| | | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) | 平成30年産 | 令和元年産 | 令和2年産(現状) |
| 大豆 | 里のほほえみ とよみずき、 ミヤギシロメ | (8) 13 | (8) 10 | (8) 8 | (122) 122 | (174) 174 | (145) 145 | (10) 15 | (15) 17 | (11) 12 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 作物計 | | (8) 13 | (8) 10 | (8) 8 | (122) 122 | (174) 174 | (145) 145 | (10) 15 | (15) 17 | (11) 12 |

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

| 作物名 | 品種名 | 平成30年産 | | 令和元年産 | | 令和2年産(現状) | | 備考 |
|-----|-------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 小麦 | | | | | | | | |
| 大麦 | シュンライ | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0.0 | 0.0% | |
| 作物計 | | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0.0 | 0.0% | |

| 作物名 | 品種名 | 平成30年産 | | 令和元年産 | | 令和2年産(現状) | | 備考 |
|-----|---------------------------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|----|
| | | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | 団地化面積(ha) | 団地化率(%) | |
| 大豆 | 里のほほえみ トヨミズキ ミヤギクロメ | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | |
| | | | | | | | | |
| 作物計 | | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | |

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

栃木県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としているが、当該地域においては、中山間地域であるため、4haを2haと変更し団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。